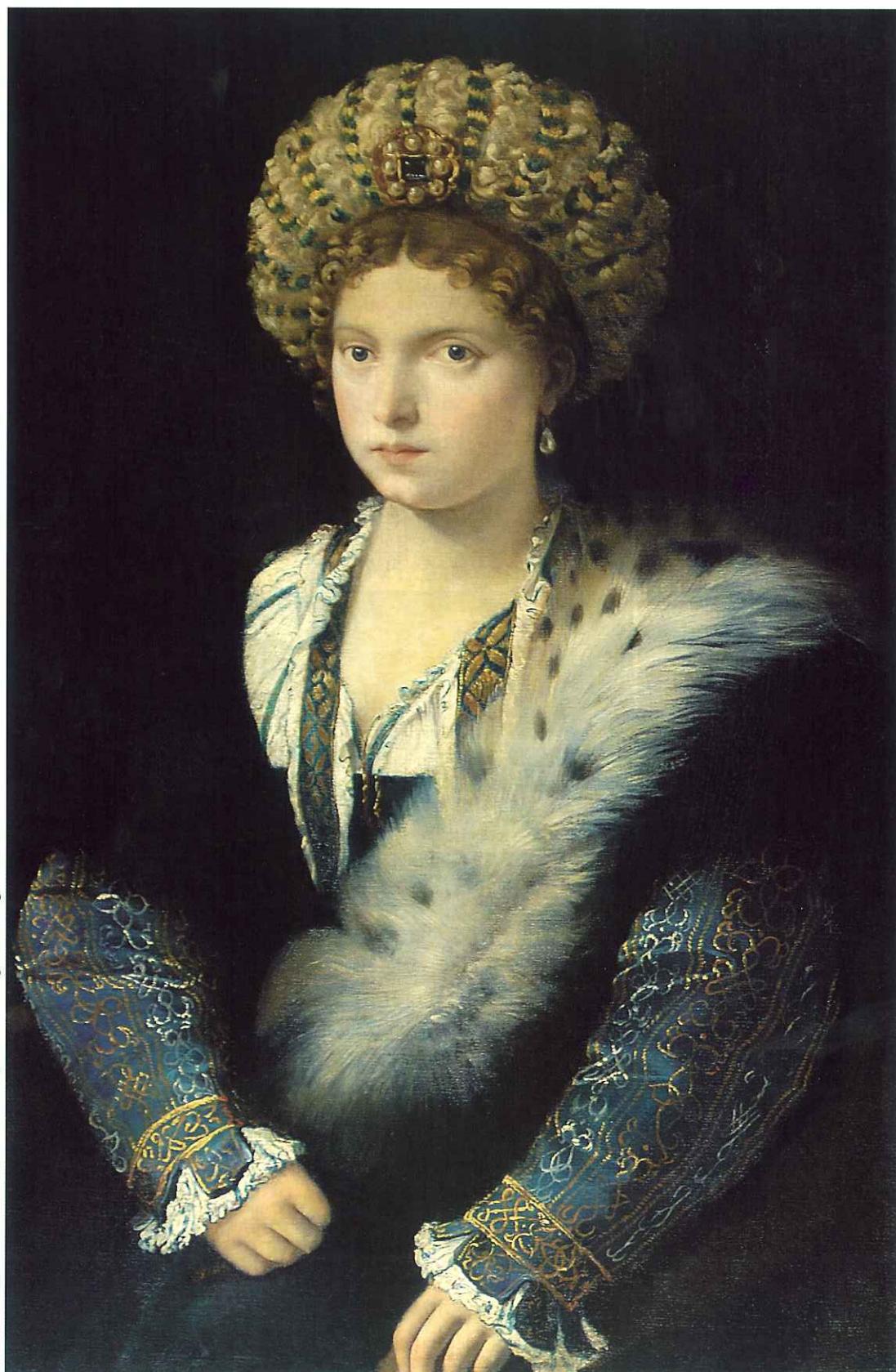


月刊ウィーン GEKKAN-WIEN

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙
創刊 1989年 No.219
2007年9月号



Gustav Klimt Isabella d'Este, 1885 Kopie nach dem gleichnamigen Gemälde von Tizian aus dem Kunsthistorischen Museum, Wien Öl auf Leinwand Schloss Pelesch,Sinaia © Klimageshiv

グスタフ・クリムト『イザベラ一世』美術史博物館(ウィーン)所蔵のティツィアーノによる同名の絵画のコピートー
一八八五年 ベルヴェデーレ上宮における特別展『グスタフ・クリムトと芸術家仲間たち』にて十月一日まで展示
ベルヴェデーレ上宮(シナイア)所蔵

ウイーン大学が輩出した巨星たち

• אוניברסיטה
Lise Meitner

リーゼ・マイトナー（一八七八—一九六八）は、
ウイーン一区レオポルトシュタットに生まれた（＊写
真参照）。清廉で親切な人柄で知られる弁護士の父、
小柄で黒い瞳の娘の厳しい母を両親とする中流ユダヤ
家庭に育つ。少女時代から数学と物理が好きだった
が、当時は女性の大学入学は許されず、教育の男女平
等が成った一九〇一年、二十三歳でウイーン大学に入
学する。九区テュルケンシュトラーセの物理学研究所
でボルツマン教授に学び、〇六年、女性では二人目の
博士号を取得し、放射能の研究に取り組む。

ユダヤ人との共著論文はドイツでは危険な時代だつたため、ハーンらが発表した論文にマイトナーの名はない。彼女とフリッシュの論文は、郵便事情で遅れ二週間後に発表された。ハーンは四四年にノーベル化学賞を単独受賞する。本来ならマイトナーも共同受賞するはずだったが、ユダヤ人を受賞者に推薦するのは微妙な終戦前の時期だった。受賞後のハーンは核分裂発見におけるマイトナーの寄与を消すことに精力を費やしたが、彼女は終始沈黙を守つた。二人の共同研究の実態を知りながら口をつぐんでいた物理学者にも責があつた。八二年、ドイツで一〇九番元素が発見された際、マイトナーにちなんでマイトネリウムと命名された。世代を超えて物理学会の良心が残されたのだろう。七二年筆者はマイトナーが証明したクライン・仁科の式関連の卒業実験などを、今どき不覚にも皮肉の名前は口にならなかつた。

（五）2層にある二往生の生室と鉛板

マイトナーが講義したウラニア（1区）



Digitized by srujanika@gmail.com



(下) 2区にあるマイトナーの生家と銘板



『みゅう』 毎日催行・現地発ツアー&チケット手配
ウィーン市内観光・ウィーンの森半日観光他(要予約)
『みゅう』 インフォメーション・センター
TEL: (01)513 9588 (日本語)
土日祝日を除く毎日8:30-11:00
(1月25日と1月1日は休業)
OPERNRING 4 (Elite Tours内) 国立オペラ座横
MIKI TRAVEL VIENNA 月~金 (9:00 ~ 11:30)
TEL: (01)310 2288-18
myu@mikivie.at www.myushop.net

日本語定期観光バス

美しい自然と文化遺産の数々を
日本語ガイドが親切に説明致します。

ウィーン市内半日観光 毎日 9時出発
ウィーンの森半日観光 每日 14時出発
バッハウ渓谷1日観光 火・木・日 9時半出発
ウィーンナイトツアーハウス 每日 19時15分出発
鉄道の旅ザルツブルク市内観光 毎日 8時22分出発
鉄道の旅ザルツカンマーゲート観光 每日 8時22分出発
ウォーキング美術史博物館 火・木・土 14時15分出発
ミュージックウォーキングツアーハウス 水・金・日 14時5分出発

ご予約 (日本語) TEL 01-7160947
マイバス・センター Net Travel Service Austria GmbH
Operngasse 6/2 A-1010 Wien

月～金： 09:00-17:30 tel. 01-7160947
土日祭日： 09:00-17:30 tel. 0664-4032882
(マイバスのみ 英語)

オペラ座前

アルベルティーナ広場

オペラ座 OPERA

BANK AUSTRIA

アーケード

カルントナハレ

アリタリア

ホーリストル

市電

地下鉄①②④号線 KARLSPLATZ 下車

ネットトラベルサービスでは
コンサートチケットや列車の
手配もしております。
HPをご参照下さい。
<http://www.enjoyaustria.net>

バーン研究所に職を得るが、所長はユダヤ人・女性差別者で、実験装置や助手も与えられず迫害を受ける。マイトナーがベルリンを去った直後の三八年十二月、彼女が計画したウランに中性子を衝突させる実験でハーンらは予想外のバリウムを検出した。手紙で物理的解釈を求められたマイトナーは、核分裂が起きたことを直感し、それを確認するための助言を送り、ハーンはこれに基づき実験により検証した。マイトナーは甥の物理学者フリッシュとともに、核分裂のメカニズムを世界で初めて理論的に解明した。

音楽と芸術の都ウェーヴィーンには、今日の世界のエネルギーを支える原子力の原点である核分裂の発見に貢献したリーゼ・マイトナーの面影が残されている。ウェーヴィーンと音楽を愛し、人間愛を失わず、嵐の時代を生き抜いた女性科学者に思いを致しては如何。

●参考文献
『リーゼ・マイトナー—嵐の時代を生き抜いた女性科学者』R.L. サイム 米沢富美子監修

■ 杉本純
(日本原子力研究開発機構 原子力研修センター長 前ウイーン事務所長) ■